

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	特定非営利活動法人 人づくり 街づくり 環境づくり		
代表者	理事長 高木 晋 スム	担当者	担当者 小林 義幸
所在地	〒285-0862 千葉県佐倉市新臼井田 28-1 TEL:043-461-6585 FAX:043-461-6585 ケイタイ 090-4545-5509 E-mail: a.blue.comm.planet@onyx.ocn.ne.jp		
設立の経緯 ／沿革	(1)当初①(A)印旛沼の浄化(水道水取水源として不名誉な我が国一の汚染度の) (B)引きこもりの基 児童の児童期の仲間、戸外自然遊びの実現。(C)地域経済振興と街づくりを ②定年層の実社会で培った 地域で貴重な知識、体験等の地域還元を図る 市民の地域貢献活動を誘発する 地域起爆剤的モデル事業の実践から始まり (2)現在下記の(D)～(G)活動迄に取組みに広がっている。		
団体の目的 ／事業概要	(1)目的:永年の不景気 1 昨年の米金融破綻に伴う 地場経済の構造的低迷と閉塞感漂う地場経済の再生、振興を老人を核とする市民の力の結集で提唱。 (2)事業概要:上記(A)～(C)に加え (D) 放棄、荒廃水田の復元、保全 (E)地域温暖化 雨水の地下浸透、涵養観点の上総掘りの実践 (F) 都市再生、街づくり、地場産業、地域雇用の創出 (G) 市民が憩い、学ぶ自然、環境公園の提唱と モデル公園の造成、実現。		
活動・事業実績 (企業の場合は環境に関する実績を記入)	(A)印旛沼の浄化提唱活動:2ヶ所に浄化再生装置を設け 実験と提唱。 (B)小学生と幼児の 2 種の自然遊びの実施。小学生年 20 回 200 名参加。 (C)街づくり、地場経済振興の策定委員会応募論文 2 種提案したが意図的に落とされている。 (D)①放棄田復元、維持運動は 3 年目を迎える。②今般自治体の市民の農業協働と振興案公募に応募し 市民参加の農業振興を提唱中。 (E)伝統工法継承と 雨水の地下浸透、涵養も意図する上総掘りの実施。 (F)前項(C)で街づくり振興活動もするも 意図的に委員会から排除されている。 (G)上記(F)構想の一つとして ①(B)の外遊び提唱活動「もう一つのがっこう」運動と ②自然、環境公園化を提唱し 私設モデル公園の造成を図っている。		
ホームページ	Http://tatsunokomura.blog25.5c2.com		
設立年月	1999 年 2 月 *認証年月日(法人団体のみ) 2005 年 12 月 26 日		
資本金/基本財産	0 円	活動事業費/売上高(H20)	2,185,000 円
組 織	スタッフ/職員数 3 名(内専従 1 名) ----- 個人会員 160 名 法人会員 0 名 その他会員(賛助会員等) 2 名		

政策のテーマ Co₂ 25%削減！海草繁茂を図り 国内排出権取引で地域経済活性化

■政策の分野

・① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨

■政策の手段

・② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑬

団体名：特定非営利活動法人

人づくり 街づくり 環境づくり

担当者名：高木 晋

■キーワード

国内排出権取引

Co₂

海草

鉄分

葉緑素

山林手入れ

山間地経済活性化

① 政策の目的

(1) 先ず国内の海中の植物プランクトン、藻の Co₂固定化を図り その固定量を森林と同様に扱い計測し Co₂排出権取引を国内でも行う。(2) 海中の植物プランクトンや藻の繁茂を図り 海岸線の長い我国を 世界有数の酸素排出＝Co₂固定国に 国際的に認めて貰う。(3) 森林と海の地域毎の Co₂固定量の計測を図り 国際間取引することなく国内間排出権取引を活発にし 外貨の流出を避け 地方の林業、漁業の雇用と売上げ振興を図り 森林、漁場も整備、充実させ 地方経済を活性化を図る。

② 背景および現状の問題点

(1) この説は 故米マーチン博士説に共鳴する現四日市大の松永先生説を（ホタテ養殖業者の畠山さんの著書にヒントを得） 小生は 唯国内排出権取引と 地域経済活性化に応用しただけで 上記政策の実現を願う提唱以外の何物でも無い。
(2) そもそも海には鉄分が不足し 松永氏説の森の落葉が堆積し フミン酸とフルボ酸になり 土中の鉄粒子をフミン酸が鉄イオン化し フルボ酸と結合し「フルボ酸鉄」にし これが植物性プランクトンや藻の葉緑素に取込まれCo₂固定化し酸素を放出するが 護岸や湾岸道路工事等が イオン化された「フルボ酸鉄」の海中流入を妨げ Co₂固定を減少させていると云う説である。

③ 政策の概要

(1) 当排出権取引で ①山林整備のための雇用がなされ Co₂固定のための山林の整備を行い ②落葉の海への流入を遮る 護岸構造物 湾岸道路の一部を切開き 流入を確保し 山林だけでなく海の植物プランクトン、藻の葉緑素にイオン化した鉄分を供給し ③Co₂の固定化を促進し（＝酸素排出を図り）大企業と都心自治体と 山林、海岸地帯町村との間の国内排出権取引を活発にする。
(2) 以上で ①海外との排出権取引で 不況の折貴重な外貨を流出すること無く（期待している相手先に悪いが） ②国内取引化で山林の整備を行うと共に 流入工事を行い 漁業も活発化し 地域収入を増し 地域雇用を活性化することで 不況対策と構造的に低迷する地域経済立て直し活動ともなる政策である。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

(1) 海中の植物プランクトン、藻の Co₂固定を 森林と同様に扱い
(2) その地域固定総量を計測し 下記(3)取引を実施する。
(3) 地方山間部、漁業町村と 排出企業、都心自治体との排出権取引市場と交換所を設け
(4) 該当町村は ①森林整備 ②護岸、湾岸道路に山からの流れの流入口をつくる工事予算を地方債を発行し この費用で植物プランクトンの活性化 藻場の繁茂を図る。
(5) 該当町村は 国内排出権取引で 得た収入で この地方債を償還し 残った収入で山林整備 更新地域の歳入不足や 新規事業予算に充当する。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

- (1) 環境庁等 複数の省庁で検討、企画、調整委員会が組成され また国内排出権取引所の創設もなされよう。
- (2) 尚企画委員には 松永先生や畠山 重篤氏（ホタテ養殖業と ECOlogist）が選ばれて当然と思う。

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- (1) 海中の植物プランクトン、藻の Co₂固定量を加えることにより25%削減を大幅に前進せしめる 積極的提案と思う。
- (2) 構想的に疲弊している山間部、海浜の町村の 経済活性化 雇用促進の総計 全国横断的な 疲弊し行き詰まった地域振興、活性化を可能ならしめる企画である。
- (3) 現行実施不可能と見られていた山林の整備を可能ならしめ 植物プランクトンを増やし藻場を豊かにし海の活力の復元と漁業収入の増大を引起こす 全国地場経済振興企画である。
- (4) 期待している国に悪いが 不況の折 国際排出権取引が回避され 外貨流失も無くなる。
- (5) 結果的に生物多様性の保全と 持続可能な自然共生社会が招来される企画であろう。

⑦ その他・特記事項

- (1) 環境関係は考えれば 案外 大きな Business を生む企画が出来ると思っている。
- ①別提言の「印旛沼浄化」「地域の並列型浄化槽」Network 構想もそうであるし
- ②12前退職時の 京葉工業地帯、成田空港、千葉港、JR貨物を総動員した「国際高度廃棄物処理構想」もそうであるが 千葉県が分らず JR貨物も出来たばかりでトンチンカンで駄目であった。現在「都市鉱山」のような事業も出来 考えれば色々な 事業や環境改善が考えられる。
- (2) 小生は 技術的経験の無い門外漢であるが。

以上